

青少年言語とインターネット：日本とドイツのソーシャルメディア (ツイッター)における新右翼的傾向

タマラ・フックス

フリードリヒ・アレクサンダー大学エアランゲン＝ニュルンベルク

日本学講座（日本近現代）、研究助手

Youth Language and the Internet: New Right Tendencies in Social Media (Twitter) in Japan and Germany

Tamara Fuchs

Friedrich-Alexander University Erlangen-Nürnberg

Chair of Japanese Studies I

Abstract

Social media has become one of the most important indicators of language development, especially for young people, and is gradually becoming a political platform. This study analyzes the linguistic differences and similarities among young people on Twitter who are on the political right spectrum and discusses the special attitudes of young people implied therein. Using two different research approaches, this study firstly examines the collocations of youth words in two large Twitter corpora in German as well in Japanese in order to find correlations to new right movements. The second, qualitative approach, looks closely at profiles of young people on Twitter, who identify with the right-wing according to their profile information. The study aims to analyze their language use and to point out similarities and differences between the German and the Japanese tweets.

1. はじめに

ソーシャルメディアは、特に若者の言語発達の最も重要な指標の一つとなった上、徐々に政治的なプラットフォームへととなりつつある。本研究では、ドイツ語と日本語で書かれたツイッターにおける政治的右派スペクトラムに位置するツイッター上の若者の言語的な違いと類似点を分析し、そこに含意する若者の特殊な態度について考察している。高校生や若者の右翼傾向と言葉遣いの研究は少ないが、先行研究を挙げると、例として小針誠が行った香山エリカから引き継いだ調査である高校生の「プチナショナリズム」に関する調査が挙げられる(小針 2011)。

2. 数量的な手段

本研究の最初の研究段階では、エアランゲン大学のコーパス言語学が提供してくれた2つのTwitterコーパスを分析した。「日本語のツイート(2011年～2014年)[重複あり]」と

いう日本語のTwitterコーパスには529,641,708語、「ドイツ語のツイート（2011年～2014年）[重複あり]」というドイツ語コーパスには106,261,930語が含まれている。ツイートは2011年から2014年までの期間に、フィルタリングせず、つまりキーワードの制限がない状態で収集された。

ツイートは個々のツイートの形ではなく、連続テキストで現れているので、個々のツイートを検索することはできないが、キーワード検索をすると、いわゆる「テキスト」を受け取ることが可能だ。この「テキスト」にはツイート全体が含まれているが、検索して出てきたデータには探しているツイート以外のツイートも含まれる。このような場合は、主にコロケーション解析に適している。そのために、CQPwebというソフトを使って、探しているノードの単語とコロケーションしている単語の頻度をカウントすることもできる。結果として得られるリストをコロケーションリストと呼ぶ。エバート (2009) が説明しているように、「コロケーション」の定義は常に捉えどころがなく、よく議論されている。エバートは、言語学者J.R.ファースの伝統を踏襲し、コロケーションを「自然言語の中で互いに近くに出現する傾向を示す2つの単語の組み合わせ、すなわち共起すること」と定義した (Evert 2009)。

このツイッターコーパスの問題点は、利用者の情報が不足していたことである。ユーザー名はすべてのツイートに表示されているが、年齢に関する有効な情報を提供するものではない。Twitterで個々のユーザーを個別にチェックすることは、手動で行わなければならないので、不可能な作業になる。そのため、焦点をユーザーではなく、ツイートの言語に移すことにした。青年言葉の使い方の指標としては、青春言葉の一覧表が良いと考える。これらは日本向けはもちろん、ドイツ向けにも毎年発売されている。コーパスは2011年から2014年に収集されたものであるため、ユースワードは2011年と2012年のものに絞り込んだ。

ドイツと日本の違いは、若者向けの言葉を見るだけで明らかになった。(表1)

「グッテンバーゲン」や「ヴルフエン」のように、明らかに目立つ言葉は、それぞれの政治家であるカール・テオドール・フォン・グッテンベルクとクリスチャン・ヴルフエンへの横やりを表す言葉である。このような政治的な言及は、日本のランキングを見ても見からない。

これらすべての単語について、個別にコロケーション分析を行った。それぞれの言語には比較対象のコーパスがないため、頻度コロケーション分析を行ったが、これは、コロケーション語と若者言葉との関連頻度を単純な数字でカウントしたものである。句読点、接続詞、前置詞、後置詞は平均的に最も一般的なものであり、分析をより困難にしているため、

意味のある分析を可能にするために、名詞のみに焦点を当てることにした。この結果は、右翼ポピュリスト思想との関連性を示すものではなかったことを事前に指摘しておく必要がある。表2)の「リア充」という言葉のコロケーション表(略)では、結果を明確にするために、個別のコロケーション分析を提示する。

表2)の4位の、「死ね」は暴力的な言葉である可能性があり、興味深い。しかし、よく調べてみると、これはよく使われる俗語の「リア充死ね」に属していることが判明した。他の共起語を見てみると、この言葉は恋愛関係に関連して使われていることが明らかになる。

他の日本語のキーワードと同じように無政治的なものだった。「Yolo」(You only live once)のコロケーション表(略(表3))でみられるよう、ドイツ語でも似たような状態が明らかになった。

もう一つの分析の特徴は、ドイツ語だけでなく、日本語でも、「リア充」以外にコーパスの中に若者の言葉がほとんどないもしくは、全くない、のいずれかであったことである。これには3つの説明が考えられる。若者がツイッターを頻繁に使わないか、各団体による若者言葉の選定が実際の若者言葉と一致していないか、若者言葉は口頭でしか使われていないがツイッターでは使われていないかのいずれかである。

本分析の結論としては、若者の言葉を使うことで、若者の間にツイッター上の政治的傾向は見られなかったと言えるだろう。しかし、右翼ポピュリズムに傾倒する若者は紛れもなく存在する。この研究の目的は、やはり、使用頻度ではなく、言葉の選択の質や違いを調べることである。

3. 質的な手段

こうして研究の第二手段に踏み出した。Twitterのニックネームには年齢も職業も記載されていないため、任意で年齢や職業(ここでは生徒や学生)をプロフィールに記載している人を手動で検索する必要があった。もちろん、これらのユーザーが本当に学生であるという保証はないが、インターネットという匿名の世界では、このようなソースからしか結果を導き出せない。いくつかのキーワード検索に基づいて、該当したものは全て手動で閲覧され、「政治的右翼感情・右派」、「政治的右翼感情・右派傾向」、「無政治的・右派ではない」、「大学生・高校生ではない」という基準に基づいて細分化された。

次に、プロフィールの単語選択に明らかな右翼的傾向または潜在的な右翼的傾向があったすべてのプロフィールに手動でアクセスし、最新のツイートを最大30個までエクセルで抽出して分析した。プロフィールの中には投稿がない、つまり未使用のプロフィールであつ

たり、投稿を公開していないプロフィールもあった。両方の言語で合計75件の投稿を収集し、分析した。

4. ドイツのツイートの分析

ドイツの75個のツイートを分析すると、最初に目に付くのは言語の正しい使い方だ。方言や若者言葉を使わず、インターネットの習慣に反して正確な文章を書いてある。それは、ハッシュタグと差別的な言葉は（表4）ように出る。

明らかに反LGBTQの態度が現れる。このサンプルのような「レインボー馬鹿者」や「色とりどりの国」の批判的な告発などの用語を用いて、LGBTQコミュニティのためのアイデンティティの政治的な努力に対して攻撃的な立場をとり、単一民族の「人民の身体」の維持に対する脅威とみなしている。そのため、伝統的な女性像や家族像への回帰を要求している。

本研究の小規模なサンプルでさえも、ルース・ウォダックのメタポリティクスによる右翼ポピュリスト概念の正常化論は浮かんでくる。ウォダック (Wodak 2015; Wodak 2016) は、FPÖの右翼保守民族主義戦略を明示的な言説分析の観点から扱っている。入手可能な研究によれば、新右派の言説は「鈍才のナチス」 (Schutzbach 2018:8)の発言とは異なり、公共の言説の中で再解釈された概念やネオロジスティックな概念を実装することで新右派の思考を正常化することを目的とした「メタポリティカル」戦略が追求されている (Wodak 2015参照)。紹介された用語は、「民族多元主義」や「The great replacement」といった新語から、新右翼の名人物のゲッツ・クビチェックが再解釈した「レコンキスタ」という用語まで多岐にわたる。

5. 日本のツイートの分析

一人のユーザー以外、日本語のツイートはほとんど「です・ます」の形で書き込まれている。彼らの投稿は、ツイッターを使う若者には珍しい明確な文章構成と専門用語の使い方が特に印象的だった。香山エリカによると、彼女が命名した「ぷちナショナリズム」という若者のナショナリズムに引き付けられる若者が巧妙で詭弁的なエリート層だ (Honda 2007; 香山 2003)。絵文字を使っていないのが印象的だった。笑いを表す略語 (笑) や「w」を主に使ったものが多かった。略語 (笑) は、新右翼のシニシズムを見事に検証している北田章宏の作品『日本の嗤う「ナショナリズム」』 (北田、暁大 2008)に直結している。

あるユーザーは、他のユーザーとは異なり、主に反則的な言葉を使って、侮辱もスラングを含めて投稿を行っている。このユーザーが主に辛辣な言葉遣いと感情的な書き込みが特徴だ。ユーザーはひどい侮辱を使う。

北田先生の理論を背景にし、アイロニーとシニシズムもサンプルに現れる。例えば次のツイート：

「韓国に核弾道ミサイル打ち込もうぜ(^ω^)」

日本風の絵文字を使って、大変恐ろしい意味を持っている文章を嘲笑うようだ。このような言い方と考え方は深いシニシズムとして考えられる。

6. 結論

ドイツ語と日本語のツイートを分析する中で、両者の類似点が明らかになった。上記に述べた日本語で現れるシニシズムもドイツ語のツイートで現れた。一つのツイートで、第三帝国の時代に白バラ抵抗運動の主要メンバーのゾフィー・ショル (5) を引用し、大変深いシニシズムとして考えられる。上記に述べた「鈍才のナチス」と違って、ユダヤ教を尊敬し、或いはそのふりをし、イスラム教を差別するがツイートで明らかになった。その上、大半のユーザーは新型コロナウイルスの感染を防ぐ措置（マスクをつけるや会合の制限など）に反抗し、メディアに不信を表すことがわかった。日本語のサンプルでは新型コロナウイルスに関するツイートは一個もなかったのも、そこには大きな違いが存在する。しかし、メディア、特に朝日新聞に対しての不信感が日本語のツイートでも発言された。林香里によると、メディア不信はグローバルの象徴である（林、香里 2017:2）。彼女が引用している2016におこなった調査によると、日本ではメディアを信用すると答えた割合は、44%で世界で28位。ドイツは58%になったそうだ。

次に目立った共通点は文法と言葉遣いの正しい書き方だった。これは、新右翼の若者たちが母国語を大切にし、何よりも無礼な右翼過激派から距離を置きたいと考えていることに起因する可能性がある。しかし、上記に説明したように、ツイッターで若者のプロフィールを見つけるのは非常に難しいことで、収集したサンプルはただ小規模であるため一般的な結論は導き出せない。

ツイッターで若者のプロフィールを見つけにくいという点に関しては、様々な結論導かれる。一つは、若者はツイッターをあまり使わないということだ。ARD/ZDFの調査によると、ドイツの20歳以下の若者のなかでツイッターを使うのは2割以下である。スナップチャットは4割を超え、Instagramは6割を超える（ARD/ZDF Onlinestudie 2020参照）。

その結果としてドイツの若者はツイッターをあまり使わない傾向がわかる。それとは反対に、日本の総務省が行った調査によると、10代と20代のツイッター利用率は6割を超え、かなり高いそうだ(総務省情報通信政策研究所 2020参照)。二つ目の結論として、若者の投稿者はツイッターの匿名性を利用し、特に政治的な態度を表明する際には自分自身についてできるだけ非公開にしようとすると考えられる。

いずれにせよ、ドイツ語と日本語の右翼傾向のある若者のツイートにはその相違点より共通点が現れることがわかった。特にアイロニー、シニシズムと正しい言葉遣いが目についた。しかし、幅広い年代を対象とする調査や研究を行うためにはツイッターはあまり向いていないと結論ができる。

表1)

ドイツ語の若者言葉1)		日本語の若者言葉2)	
2011	2012	2011	2012
Swag	Yolo	リア充	てへぺろ
Epic Fail	FU!	てへぺろ	きゃわたん
Guttenbergen	Yalla!	あげぼよ	ワイルドだろお
Körperklaus	Wulffen	とりま	どうするう
Googeln	Komasutra	からの～	テンアゲ

表2)

No.	Word	Observed collocate frequency	In no. of texts
1	リア充	7420	291
2	爆発	991	125
3	www	889	191
4	死ぬ	585	138

表3)

No.	Word	Observed collocate frequency	In no. of texts
1	Hipster	19	12
2	RT	19	19
3	Morgen	17	16
4	Leute	16	16

表4)

ekelhafte Leute	醜悪な人
#abschieben	#追い出す
#gegenblacklivesmatter	#反ブラック・ライヴズ・マター
#AfD	#AfD
#Buntland	#色とりどりの国3)
im eigenen Land fremd	自分の国で
Regenbogentralalalas	レインボー馬鹿者4)
Bevölkerungsaustausch	The great replacement

注

- 1) ランゲンシャイトに選ばれた若者の言葉
- 2) 女子中高生ケータイ流行語大賞。若い女性を中心としたデータではあるが、若者の言葉という点ではこのランキングが最も代表的だとみなす。
- 3) 色とりどりの国という表現はLBTQのレインボーに批判的に関連する。
- 4) レインボーはLGBTQコミュニティが象徴として使っているレインボーを示す。
- 5) ゾフィー・ショルとの比較は10月11日に行った反コロナデモにおいても女性の学生に使われ、メディアで大変批判された。本研究で分析したツイートはその一か月前に投稿された。そのため、反コロナと右翼の運動の共通点が推測できることも考えられる。

文献

- ARD/ZDF Onlinestudie. 2020. “Nutzung von Social Media/WhatsApp 2020: ソーシャルメディア/WhatsAppの活用 2020.” Retrieved December 8, 2020 (<https://www.ard-zdf-onlinestudie.de/social-mediawhatsapp/>).
- Baker, Paul. 2010. “*Sociolinguistics and Corpus Linguistics*”. Edinburgh: Edinburgh Sociolinguistics.
- Evert, Stefan. 2009. “Corpora and Collocations.” Pp. 1212–48 in *Handbücher zur Sprach- und Kommunikationswissenschaft /HSKJ*, vol. 29.2, *Corpus linguistics: An International Handbook*, edited by A. Lüdeling and M. Kytö. Berlin: de Gruyter.
- Higuchi, Naoto. 2016. “*Japan's Ultra-right*”. Melbourne: Trans Pacific Press.
- Honda, Yuki. 2007. “Review: Focusing in on Contemporary Japan's 'Youth' Nationalism.” *Social Science Japan Journal* (Vol. 10, Nr. 2):281–86.
- Schutzbach, Franziska, editor. 2018. “*Die Rhetorik der Rechten: 右翼のレトリック*”. 1st ed. Zürich: Xanthippe.
- Stahl, Enno. 2019. “*Die Sprache der Neuen Rechten: 新右翼の言葉*.” 1st ed. Stuttgart: Alfred Kröner Verlag.
- Wodak, Ruth. 2015. ““*Normalisierung nach rechts*”: *Politischer Diskurs im Spannungsfeld von Neoliberalismus, Populismus und kritischer Öffentlichkeit*: 「右へのノーマライゼーション」: 新自由主義、ポピュリズム、批判的公共の緊張の場における政治的言説:” : *Linguistik Online*.
- Wodak, Ruth. 2016. “Politik mit der Angst: 恐怖の政治.” Wien, Hamburg: Edition Konturen.
- 北田、暁大. 2008. 『嗤う日本の「ナショナリズム」』. 東京: 日本放送出版協会.
- 小針, 誠. 2011. 「現代の高校生における『ぷちナショナリズム』意識.」 『同志社女子大学総合文化研究所紀要』 (28):69–79.
- 林、香里. 2017. 『メディア不信.』 東京: 岩波書店.
- 総務省情報通信政策研究所. 2020. 「平成30年度情報通信メディアの利用時間と情報行動に関する調査報告書.」
Retrieved 2020年12月08日 (https://www.soumu.go.jp/main_content/000644166.pdf).
- 香山, リカ. 2003. 『ぷちナショナリズム症候群—若者たちのニッポン主義.』 東京: 中央公論新社.